

学校整理番号 (1207)

2019 年度 教育要項(抜粋)

葵会柏看護専門学校

IV. 学則の施行および規程

授業科目履修規程

(目的)

第1条 この規程は、葵会柏看護専門学校（以下「本校」という。）学則第4章に定める教育課程、授業単位数・時間数及び単位の認定等について必要な事項を定めることを目的とする。

(授業時間)

第2条 本校の授業時間の取り扱いについては、次のとおりとする。

- (1) 講義・演習・校内実習時間は、45分を1時間とし、1コマは2時間とする。
- (2) 臨地実習は、60分を1時間とする。

(始業時間と終業時間)

第3条 本校の始業時間と終業時間は、次のとおりとする。

(1) 授業時間

- | | |
|-----|-------------|
| 1時限 | 9:20～10:50 |
| 2時限 | 11:00～12:30 |
| 3時限 | 13:30～15:00 |
| 4時限 | 15:10～16:40 |

(2) 臨地実習時間は、別に定める実習要項による。

2 前項の規定にかかわらず学校長が必要と認めるときは、時間を変更することができる。

(出席)

第4条 授業は、すべて毎時間出席しなければならない。

(欠課・欠席)

第5条 欠課または欠席しようとするときは、事前に欠席届(第7号様式)を提出しなければならない。

ただし、急病等やむを得ない理由により事前に欠課または欠席届を提出できないときは、事後すみやかに提出するものとする。

- 2 欠席とは、出席すべき日に出校しないこと。
- 3 欠課とは、各授業時間を30分以上欠くこと。
- 4 病気により引き続き7日以上欠席する場合は、医師の診断書を提出しなければならない。

(公認欠席)

第6条 次の場合は公認欠席とし、事前に公欠届(第8号様式)を提出した場合、出席扱いとする。

- (1) 学校を代表して諸行事に出席する場合

(2) 学校保健安全法施行規則(昭和 33 年 6 月 13 日文部省令第 18 号)第 21 条に該当する場合

(3) 忌引き

(4) その他学校長が認めた場合

2 忌引き日数は、次のとおりとする。

(1) 父母(一親等)は 7 日以内

(2) 祖父母・兄弟姉妹(二親等)は 3 日以内

(3) 伯父叔父・伯母叔母(三親等)は 1 日以内

(授業科目及び実習の評価)

第 7 条 授業科目及び実習の評価は、各授業科目の終講試験ならびに臨地実習の成績にて判定する。

(評価の方法)

第 8 条 終講試験の評価は、当該科目を担当する教員及び講師が客観テスト、論文体テスト及び観察法その他適切な方法を用いて行う。

2 臨地実習の評価は、実習評価基準に基づき行う。

(評価の時期)

第 9 条 評価の時期は、事前に方法等の必要事項を公表し、各授業科目の修了時に実施する。ただし、当該授業科目を担当する教員及び講師が必要と認めるときは、修了前に行うことができる。

(終講試験の受験資格)

第 10 条 終講試験の受験資格は、次の各号の条件を満たしている者に与える。

(1) 当該授業科目の授業時間数の 5 分の 4 以上出席した者

(2) 学生納付金を納めている者

2 前項の条件を満たさない者及び試験場に試験開始時刻より 30 分以上遅刻した者は、終講試験を受験することができない。

(臨地実習の評価対象)

第 11 条 臨地実習の評価を受ける資格は、次の各号の条件を満たしている者に与える。

(1) 臨地実習の実習時間数の 5 分の 4 以上出席した者

(2) 学生納付金を納めている者

(成績の評価)

第 12 条 学業成績は、各授業科目のいずれも 100 点を満点とする。

2 学業成績の評価は次のとおりとし、可以上を合格とする。

- (1) 優 80 点以上
- (2) 良 70 点以上 80 点未満
- (3) 可 60 点以上 70 点未満
- (4) 不可 60 点未満

(追試験)

第 13 条 定められた期日に終講試験を受けることができなかった者で、次の各号に該当する場合は、追試験を 1 回に限り受験することができる。ただし、別に定める追試験受験料を納入しなければ追試験を受験することはできない。

- (1) 医師の診断書のある傷病等による欠席の場合
 - (2) 自然災害、交通機関の停止等により登校不可能のやむを得ない事由が生じた場合
 - (3) 第 6 条第 1 項に規定する公認欠席事項に該当する場合
 - (4) その他学校長が認める正当な理由での欠席の場合
- 2 追試験の評価は、60 点以上を合格とする。ただし、追試験の評価は得点の 8 割とする。
- 3 追試験の結果が不合格の者は、再試験を受けることができる。

(再試験)

第 14 条 終講試験および追試験の結果が不合格の者は、再試験を 1 回に限り受験することができる。ただし、別に定める再試験受験料を納入しなければ再試験を受験することはできない。

- 2 再試験の評価は、60 点以上を合格とする。ただし、再試験の得点が 60 点を超えた場合でも 60 点とし、評価は可とする。

(追実習)

第 15 条 臨地実習の出席時間が第 13 条第 1 項の各号に該当する理由により実習時間数の 5 分の 4 に満たない者は、追実習を 1 回に限り受けることができる。ただし、別に定める追実習料を納入しなければ追実習を実施することはできない。

- 2 追実習の評価は、60 点以上を合格とする。ただし、追実習の評価は得点の 8 割とする。
- 3 追実習の結果が不合格の者は、再実習を受けることができる。

(再実習)

第 16 条 臨地実習および追実習の結果が不合格の者は、再実習を 1 回に限り受けることができる。ただし、別に定める再実習料を納入しなければ再実習を実施することはできない。

- 2 再実習の評価は、60 点以上を合格とする。ただし、再実習の得点が 60 点を超えた場合でも 60 点とし、評価は可とする。

(再履修)

第 17 条 当該年度で単位認定を受けることができなかった授業科目は、再履修しなければならない。
ただし、別に定める再履修科目の授業料を納入し、学校長の許可を受けなければ再履修することはできない。

(試験中の不正行為)

第 18 条 すべての試験について不正行為があった場合は、その受験科目を無効とし、教職員会議の議を経て学校長が懲戒処分を行う。

(試験中および実習中の欠席)

第 19 条 無断で終講試験及び臨地実習を欠席した者については、教職員会議の議を経て学校長が処置を指示する。

(卒業認定)

第 20 条 本校で定められた修業年限以上在学し、卒業までに必要とされる全単位を修得した場合、卒業することができる。

- 2 欠席日数が出席すべき日数の 5 分の 1 を超える者については、卒業を認めない。
- 3 学生納付金を停滞し、催促を受けてもなお納入しない者は、卒業を認めない。
- 4 本校に在学できる年限は、学則第 4 条第 2 項に示す範囲とする。ただし、在学期間に休学が含まれる場合の算定については、学則第 17 条に従う。
- 5 卒業の認定は、単位認定・卒業認定会議の議を経て学校長が認定する。

(改廃)

第 21 条 この規程の改廃は、学校運営会議の議を経て学校長が行う。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

別表

追・再試験受験料、追・再実習料及び再履修科目授業料	納入金額
追・再試験受験料	1科目 2,000円
追・再実習料	1科目1日 3,500円
再履修科目授業料	1単位 25,000円

